

ナシ平塚16号(ナシひらつか16ごう)(俗称:かおり)

育成者：農林水産省果樹試験場（神奈川県平塚市大原1-24）
育成地：神奈川県平塚市（農林水産省果樹試験場）
来歴：「新興」と「幸水」の交雑実生

特性

■栽培特性

樹勢は中からやや強く、新梢の発生本数はやや少ない。冬季の新梢の色は褐色を呈する。えき花芽および短果枝の着生は良好である。また、短果枝の維持も良い。花弁は、蕾の時にはピンクがかっているが、開花時には白色になる。開花期は「豊水」よりやや早い。花粉は稔性があり、主要な品種と交配親和性がある。

■果実特性

果実は、円形で500～700gのものが一般的であるが、1kgを超えるものもある。玉揃いはやや不良である。有てい果はほとんど見られない。果皮色は緑で、成熟期にはやや黄色味を帯びる。果梗の長さ太さは中で、肉梗はない。収穫期に果梗が離層部分から黒変する。サビがていあ部を中心に発生する。千葉県における成熟期は、9月中旬で「豊水」の収穫後期に当たる。果肉硬度は5ポンドを超えやや硬く、肉質は粗い。果汁糖度は12%以上になり、果汁pHは5程度で酸味を感じない。渋味はなく、成熟するとリンゴのような香気を有する。収穫後にぼけやすいことから、日持ち性は短いと思われる。軸折れおよび生理的裂果は発生しない。心腐れおよび硬化障害の発生は見られていない。まれにみつ症が発生する。収穫期の直前から後期落果が発生し始め、遅くなるにつれその程度が大きくなる。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

黒斑病には抵抗性である。黒星病やその他の病害虫に対しては、赤ナシの慣行防除で問題はない。ナシえそ斑点病の病徴の発現性は明らかではない。

無袋では、ていあ部を中心にサビが目立つが、販売上問題となるほどではない。大袋の1回掛けでサビの発生は減少するが、果点が目立つため「二十世紀」のような綺麗な外観には仕上がらない。栽培技術の検討は十分に行われていないが、果実が大きいほど糖度が高い傾向にあるので、1m²当たりの着果数を6～7果にして大玉果の生産に努める。収穫適期は明らかではないが、現地では後期落果が発生し始めた頃から、果皮の緑が抜けてやや白から黄色味を帯びた果実を収穫する事例が多い。

■地域適応性

本品種は大果の青ナシで、やや果肉が硬いものの食味が良好で、独特の香気を有しており、この時期の青ナシが少ないことから、有望な品種と思われる。しかし、収穫期間が短いため大面積で作るのは難しく、日持ち性が短いことから、市場出荷よりも直売に適した品種である。また、年や園による果実品質のばらつきが、「幸水」や「豊水」より大きいため、導入に際し試作を要する。

(川瀬信三)